

「学園ドラマ」

偶然にも「もしもイケメンだけの学校があったら」と言う学園ドラマが毎週土曜日に放映されていたことを知った。私には理解できないストーリーで、原作はコミック版なのかなと首をかしげた。

学園ドラマと言えば、NHKの「中学生日記」があった。1970年代前半から40年以上続いた番組だ。普通の中学生在何を考え何を感じているのかを題材にして、中学生、保護者、教員の葛藤を描き続けていた。当初は22%の高視聴率を誇っていたが、晩年は2%未満になり放映を終えている。時代の変化とともに中学生が見なくなっただけらしい。

1970年代後半には、校内暴力が社会問題となり、主流は中学2年生だった。自らの学力のなさから卒業後の自分の生活を悲観し、親や教師との軋轢のはけ口が対教師への校内暴力となって表出した。

そのころ民放では武田鉄也扮する「3年B組金八先生」の放映が始まり、その後「スクール☆ウォーズ」が続いている。「金八先生」では、校内暴力などの社会問題となっている内容が主題として扱われ、生徒の妊娠問題も取り上げ、「中学生日記」とは一線を画していた。NHKと民放の制作意図が見え隠れしていた。

しかし、共通点もあった。登場した親や教師たちは、生徒の問題を理解できず受け止めることができない大人から、現実を正面から受け入れ理解しようとする大人へと変貌し、生徒たちも大人たちの理解のもとに、自ら問題を仲間とともに取り組んでいくというストーリーが基本となって描かれている。大人に理解されたい、自分の味方になってくれる大人を求め続ける中学生には、そして公教育に期待をし続けたい親にとっては、きわめて現実的な番組であった故に視聴率は高かった。

その原点は今も変わらないはずだ。今のコロナ禍での現状や不登校、そして発達障害なども題材にした学園ドラマは現れないものだろうか？

理解しがたい学園ドラマの放映は続いている。、それに共感できる若者のような感性が古希を迎える私にはないことは残念だ(笑)

(丹羽 豊)